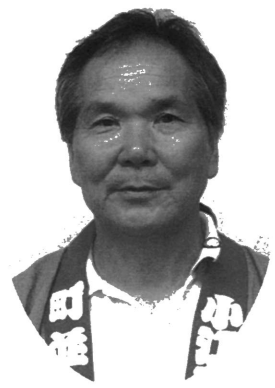
佐原の町並み
かわら版

第 40 号
平成１９年８月
発　行　NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会
佐原町並み保存会
お問い合わせ 佐原町並み交流館
☎ 0478(52)1000

会の活動と市民の協力とが成果生む

NPO法人・小野川と佐原の町並みを考える会
理事長・**高橋賢一**



NPO発足三年目に

本年、私たちの「小野川と佐原の町並みを考える会」は、NPO法人化発足以来三年目を迎えると同時に、さらに「重要伝統的建造物群保存地区指定」十周年にも当ります。ここまで盛り上げ、育てていただいた市民の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

観光客の増加

佐原の町並みを訪れる観光客は年々増加しています。今年の「あやめ祭り」が開催された六月に、そのピークを迎えた観がありました。佐原商工会議所が音頭をとって行われた「小野川沿いの歩行者天国」は、土、日に限ったものでしたが、沢山の観光客に佐原を楽しんでいただく良い取り組みとなりました。もしこの取り組みがなければ、どっと押し寄せた観光客は、町並みの混雑の中で右往左往し、大変な不満を持ってお帰りになられたことでしょう。ここに改めて、「歩行者天国」の実施に際し、市民の皆様からいただいたご協力に対して感謝申しあげます。

「骨董市」の盛況

本会は、昨年度、様々な活動を展開してきました。なかでも、昨年六月から、小野川沿いの観光客を八坂神社方面へ誘導しようと、「小江戸・佐原の骨董市」の開催に取り組んできました。その成果は、一年間の来場者が延べ二万人に達し、「骨董市」が立派な事業として定着したことを証明することができました。地元産品のコーナーも設け、楽しい買い物も出来ます。新しく「草花・山野草直売コーナー」も始めましたのでさらに楽しみが増えると思われます。

「佐原三菱館」の運営受託

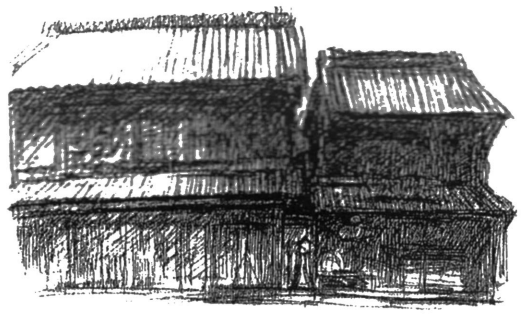
この四月より、「佐原三菱館の運営」について、香取市教育委員会より受託いたしました。佐原町並み交流館のホール内の展示と同様、「三菱館」のスペースを活用した多彩な催しものを企画・予定していますので、市民のみなさま、どうぞ、お気軽に「佐原町並み交流館」にお立ち寄りください。

平成１８年度の活動から

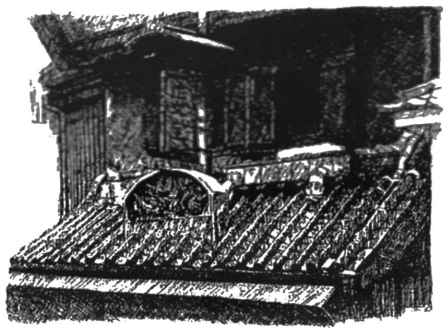
4月	1日	交流館受託事業開始
5月	10日	考える会「第２回総会」
	17日	伊能忠敬墓前祭　観福寺
6月	2日	都市景観大賞「美しい町並み賞」優秀賞受賞
	4日	第１回骨董市　八坂神社
	24日	平成１８年度ＮＰＯパワーアップ補助金プレゼンテーション　千葉市
7月	6日	平成１８年度ＮＰＯパワーアップ補助金交付認可
	27日	小学館雑誌「ラクダ」取材
8月	17日	雑誌「花時間」取材
	19日	佐原おかみさん会納涼祭
	29日	小江戸サミット佐原大会
9月	6日	郷土史説明講座「伊能忠敬」
	11日	韓国ＫＢＳ、近畿日本ツーリスト、千葉県観光協会、来館
10月	4日	房総の小江戸「大多喜」をつくる会来館
	5日	「かわら版」の発行
	10日	おもいっきりテレビ（日テレ）放映打合せ
	25日	ようこそ千葉へ！あったか千葉のおもてなし講習会
11月	1日	ＤＣ対応「町並み案内」
	4～5日	第六回骨董市
	18日～19日	町並み建物公開事業「町づくり講習会」
	28日	電線地中化会議
12月	7日	バーチャル・リアリティ映像会議　つくば大学
	16日	朝日新聞千葉総局取材
1月	30日	伝建補助金監査会　文化庁、県文化財課来館
2月	1日	千葉県デスティネーション・キャンペーン（～4月30日）
	21日	観光案内講座小林裕幸氏
	27日	雑誌「大人のウォーカー」取材
3月	4日	第１０回骨董市
	10日	ＤＣ対応第１１回骨董市
	11日	ハンガリー視察団来館
	12日	千葉県商工労働部観光課来館
	23日	ＮＰＯパワーアップ補助金現地調査官来館

※　小野川護岸植込みフン掃除は毎月実施。年間行事のほんの一部の紹介です。

町並み三景



江戸時代創業の
福新呉服店（左）
小堀屋そば店（右）



蔵づくりの書店「正文堂」
佐藤清（当会会員）・画

天保創業の醤油店
「正上」
ＴＶ・映画のロケーション地として有名

「交流の本領発揮」のこの一年

佐原町並み交流館館長・小林和男

就任一年目を振り返って、何といっても多数の市民の皆様に助けられたというのが実感です。交流館の活動を盛り上げようという、まさに「交流の本領発揮」とでもいったらいいのでしょうか、とにかくこの一年は、「交流館」を市民とのコミュニケーションの場とするべく、各方面の皆様のご協力、励ましによってがんばることが出来ました。

交流館のホールを会場として、一年間途切れることなく「展示」が行われたことが、その結果としてよく表われています。

千葉県ＤＣ参加事業
「伝統工芸展」が好評

まず、「千葉県伝統工芸展」の連続開催では、伝統工芸士の方々の協力は勿論でしたが、作品展示そのものが大変好評でした。

佐原全町内の協力が得られた「町内扇子展」では、一町も欠けることなく出品していただけたのはうれしいことでした。

天真正伝「**香取神道流**」展

「香取神道流」の展示は、近年稀なる催しでした。貴重な品々や資料が充実していて、普段であれば全く不可能な展示内容であったと思います。

その他、全ての展示が、ボランティア精神のフル回転でおこなわれたことに、心から感謝しています。町づくりの「機運の向上」が感じ取れる経験でした。

また、交流館の入場者数の増加はうれしい限りです。

前年度の入場者数は
のべ八六、〇八四名

今後も香取市民と観光客の皆さんとのコミュニケーションの場として「交流館」が利用されるよう励むつもりです。

「千葉県ＤＣ」週間

千葉県デスティネーション・キャンペーン（県内重点地区観光客誘致の取り組み）には、積極的に協力・参加し、私たちも重要な役割の一翼を担えたことに満足しています。

（佐原町並み交流館の二階研修室の**昨年の利用者総数**
のべ一三、〇一四名）

後二年　全国町並みゼミ、当地で開催

事務局長・佐藤健太良

第三十回「全国町並みゼミ」が伊勢市で、来る九月十四日より三日間行われます。来年は愛媛県宇和市。二年後の第三十二回大会が香取市を中心に開催されます。ＮＰＯ法人「全国町並み保存連盟」主催で、「重伝建」に指定された都市などが参加する大規模な大会になります。

功労賞受賞
おめでとうございます

○国土交通省「町づくり功労賞」

NPO法人「小野川と佐原の町並みを考える会」
前・理事長　加瀬　順一郎氏

歴史的町並みを生かした魅力あるまちづくりへの貢献が評価されて、「第二十五回まちづくり月間」にあたり、平成十九年六月十五日に国土交通大臣より表彰されました。

○「千葉県知事賞」

NPO法人「小野川と佐原の町並みを考える会」
現・副理事長・吉田　昌司氏

良好な市街地環境形成の重要性を認識し、魅力あるまちづくりの推進に尽力した功績により、平成十九年六月二十七日、千葉県庁において堂本千葉県知事より表彰されました。

きれいな町並みを見習いたい

先日は、お忙しい中、私たちのために、いろいろ教えていただき、ありがとうございました。佐原の歴史ある建物や町並みを見て、とても感動しました。また、佐原の町はとてもきれいで、私たちも見習おうと思います。佐原で学んだことを、これからいろいろな所で生かせるようにがんばります。

（銚子市中学一年・女子生徒）

佐渡の中学生が町並み案内を学ぶ

私は、今年の二月十四日に佐原を訪ねた「重伝建地区の宿根木が近くにある佐渡の中学教師」です。その時の皆さんの佐原への「誇り」や「自信」に触れ、とても感動して帰ってきました。こちらでも、観光ボランティアをやってみたいと考え、三年生の「選択社会」を選んだ生徒がおこなうことにしました。夏休み中の土、日に実施しています。中学生がやっているということでお客さんからもすごく好評です。回数を重ねるごとに慣れていき、自信を深めているようです。地元の新聞やテレビでも取り上げていただきました（新潟日報新聞社）。また、二年生の総合学習でも、宿根木のホームページを作成し、公開中です。全国どこのホームページよりも充実したものを作ろうと意気込んでいます。

（新潟県佐渡市小木中学校・教諭）

（佐渡の中学生一クラス三八名が修学旅行で來佐しました）

観光案内に「感謝の礼状」

（第一回）

「交流館」ニュース

①絵葉書の売れ行きが好調

交流館で販売されている佐藤清先生の原画になるカラー版8枚、白黒版8枚の絵葉書が、来館者に好評。一枚百円。ベストワンの売り上げは、カラー版が「小野川の春」、白黒版は「伊能忠敬の旧宅」。一セット百円。

②観光ファイリング・マップ

工学院大学の学生の発案で、「町づくり委員会」が作成した新しい観光案内図が完成。クリア・ファイルに町並み、文化財、みやげ・食事等のテーマ別の案内図を差し込んで使うもので、一枚では見にくかった観光案内図が、見学時間や場所ごとに姿を変えられるのが妙。

③外国人来館者

平成十八年度の外国人の交流館への来館者数は、午前が一九九名、午後が三〇九名。総計五〇八名。欧米から二四八名。中国・韓国・台湾は一二〇名。その他二四名。

④観光案内実績

町並み案内の案内回数は、

平成十七年度　三三三回
平成十八年度　三九六回

ほぼ毎日複数回の案内が行われていたことになる。

⑤観光案内人数

平成十七年度　一一、五六五名
平成十八年度　一二、八一四名

何といっても、そのピークは六月の「あやめ祭」で、

平成十七年度　二、二八二名
平成十八年度　三、二四〇名

とほぼ倍増した。

次のピーク月は十、十一月だが、それでもあやめ期の半数にも達しなかった。

忠敬の人生に学ぶ

秋冷の候、先日は、私共夫婦二人だけでしたが、佐原をご案内いただきありがとうございました。二人だけで見物するのとでは雲泥の差で、伊能忠敬や佐原のことをよく知ることが出来ました。第二の人生を全うした伊能忠敬にあやかり、また負けないようにとの気魄で佐原のガイドをなさっておられる吉田昌司さまに感動いたしました。それらの心構えが吉田さまをお若くしているのではないかなとも思いました。

（神奈川県愛川町・ご夫妻）

「さわら町並み案内」の事始め

その一・吉田昌司さんのがんばり

むかし、そして今

吉田さんは、大正十五年十二月生まれ、佐原の浜宿で育ちました。お父さんが淑徳高女前に「たび屋」という、職人用の作業服の仕立てをする店を開いていました。

十八才の時志願して、新潟県村松町にあった「陸軍少年通信兵学校」へ進み、のちに選抜され群馬県富岡にあった「参謀本部乙種兵学校」へ。終戦で復員した時は二十才でした。家業を継ぎましたが、終戦直後の混乱した激しい変化の中で青春時代を送ることとなります。現在八三才で、「小野川と佐原の町並みを考える会」の副理事長をつとめています。

今年六月、観光ボランティアを組織し地域に貢献した功労により「千葉県知事賞」を受賞しました。

市民講座から

吉田さんたちの観光案内の原点は、佐原中央公民館が出来た時、その市民講座の第一回「郷土歴史教室」の受講生になったことにありました。受講生たちは一年間の成果を毎年「公民館祭」で発表してきましたが、成果をそのままにしておくのはもったいないと、吉田さんの発案で「町並み案内・入門講座」が始まったのが平成八年。佐原の「重伝建」地区指定が間近に迫っている頃でした。

中学生に「忠敬」を説く吉田さん

自転車で史跡をめぐる

吉田さん自身も「郷土史」研究にのめり込んでいきました。朝五時に起きて、自転車で利根川を越え、また佐原市周辺の史跡を巡ったりしながら「利根川の東遷」、「文化遺産の調査」という二つの研究成果をまとめあげました。

本拠は「三菱館」

平成八年七月から「町並み案内」の実践に入りました。週二回、「三菱館」に集合し、「お客さまへの声のかけ方」や「お茶の出し方」の訓練から始めました。

案内は吉田さんが先導し、後尾に一名がつくという形をとりました。

当初の案内はせいぜい月一～二回とさびしいものでした。

平成十年から各々が独立し、「観光案内」がいよいよ本格化していきました。

（文責・新井勝治・広報班）